

神戸女学院大学 女性学インスティテュート主催

協力：奈良女子大学 アジア・ジェンダー文化学研究センター

第1回 女性学研究会

日時・場所：2017年6月23日（金）15時40分～・文学館 L-7

◇15:40～16:40 小坂美保 先生（神戸女学院大学 体育研究室 専任講師）

スポーツにおける「性別問題」－「女性」アスリートに向けられるまなざし－

スポーツ（競技）において素晴らしい記録が出された時…

当該アスリートに向けられるまなざしは、多くの場合「賞賛のまなざし」あるいは「疑念のまなざし－ドーピングでは？」だろう。しかし、女性アスリートの場合、もう一つのまなざし加わる。「男性なのでは？－性別への疑義」という身体に向けられるまなざしである。本報告では、ある女性アスリートを事例にスポーツにおけるジェンダー問題について検討していく。

〈経歴〉 香川大学教育学部卒業、岡山大学大学院教育学研究科修士課程修了、奈良女子大学大学院人間文化研究科後期博士課程単位取得満期退学。修士（教育学）。兵庫教育大学大学院助教を経て、2016年度より神戸女学院大学専任講師。神戸女学院大学女性学 Inst. 所員。専門は、スポーツ社会学，体育科教育学。



◇16:50～17:50 浅田晴久 先生（奈良女子大学 研究院 人文科学系 准教授）

Bangladesh 農村部におけるリプロダクティブ・ヘルス改善のための NGO との共同研究 －アンケート調査の分析からみる農村女性の実態

Bangladesh は、ミレニアム開発目標（MDG）の母子保健項目の達成状況において良好な成績を修めつつある国とされているが、目標の達成は医療要因の改善のみによって成し遂げられるものではなく、ジェンダーや教育、経済などのより広い要因から分析される必要がある。本研究では地元 NGO の活動が農村女性の生活に与える影響をさまざまな視点から評価することで、国全体を医療化する道筋とは異なる方法で母子保健指標を改善する可能性を探ることを目的とする。

〈経歴〉 東京大学理学部地学科卒業、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科研究指導認定退学。博士（地域研究）。日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、2013年より奈良女子大学講師、2016年より准教授。奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター・センター員。専門は地理学・南アジア地域研究。



奈良女子大学 アジア・ジェンダー文化学研究センター長
松岡悦子教授 バングラデシュにて



奈良女子大学 浅田晴久准教授 インドにて

* 研究者対象の研究会です。興味のある方はどなたでもご参加ください。